

防 除 情 報

平成 17 年 4 月 15 日
長崎県病害虫防除所長

平成 17 年度病害虫発生予察 防除情報第 1 号

ヒメトビウンカの縞葉枯病ウイルスの保毒状況及び生息密度について

ヒメトビウンカ越冬世代の縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が高い状況にあります。水稻で縞葉枯病の発生が多くなることが予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 縞葉枯病ウイルスの保毒状況

3月7～31日に県下13地点の水田（1地点当たり概ね5圃場）で吹き出し法によりヒメトビウンカの採集を行い、ラテックス凝集反応法を用いて縞葉枯病ウイルスの保毒状況を検定した。その結果、保毒虫率は3.8%（平成16年1.6%）と平成より高かった（表1、2）。生息密度は10㎡当たり8.3頭（平成16年12.6頭）で平成よりやや少なかった（表1、2）。
2. 防除対策
 - (1) 早期、普通期ともに移植時にはウンカ類に効果のある箱施薬剤を施用する。
 - (2) 麦類が作付けされている地域では、4月下旬から5月上旬にかけて麦類の防除を行い、ヒメトビウンカの密度低下を図る。麦類赤かび病の防除が終わっていない圃場では同時防除を行う。
 - (3) 普通期水稻では4月下旬から5月上旬にかけて水田を耕起し、ヒメトビウンカの密度低下を図る。
 - (4) 病害虫防除所において5月上中旬に第1世代の保毒率調査を実施するので、今後の保毒率の推移にも注意する。

表1 各地点のウイルス保毒率と生息密度

調査地点	検定虫数	保毒率	生息密度 (頭/10㎡)
長崎市外海根島	100	4.0	4.4
崎市外海根島	100	6.0	7.9
諫早市小野	100	3.0	24.0
諫早市小野	25	0	4.6
諫早市小野	86	9.3	6.2
諫早市小野	100	10.0	5.1
諫早市小野	100	5.0	20.4
諫早市小野	100	2.0	17.6
諫早市小野	100	1.0	9.7
諫早市小野	100	3.0	12.9
諫早市小野	100	2.0	16.7
諫早市小野	100	0	9.0
諫早市小野	35	0	1.1
合計（平均）	1146	3.8	8.3

表2 ウイルス保毒率と生息密度の推移

年	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	平成	H17
保毒率	0.3	1.2	7.7	1.0	1.6	1.2	3.3	0.7	2.4	2.1	1.6	3.8
生息密度	22.9	13.0	16.4	12.3	12.3	10.3	11.1	15.0	8.1	10.6	12.6	8.3

注) 平成値はH7～16年の最大・小値を除いた平均値
生息密度は10㎡当たりの頭数

「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。